

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経済学科
科目名※	西洋経済史Ⅰ		単位数 ※ 2
開講学期※	2024年度前期	曜日・時限 ※	月-2
キャンパス※			教室※ 208
学修分野			
授業目的※	<p>砂糖は今私たちにとって身近な調味料です。しかし砂糖は古代からずっと、手軽に口にできる食べ物だったわけではありません。</p> <p>この科目は、この「ズレ」の背景にある、ヨーロッパと大西洋を囲む大陸間の富・モノ・人の移動の近代史を学びます。近代のヨーロッパ商人の活動が「誰もが消費する世界商品」に砂糖を変えていく過程を、16～18世紀のグローバル・ヒストリーとして理解しようとし、その舞台となるヨーロッパと北米大陸、アフリカ大陸という3地域の経済が砂糖を通じてどのようにつながり、その消費文化を変えていったのでしょうか。また後期の西洋経済史2の講義テーマでもある「自由貿易と工業化」の前提知識にもなるため、体系的に西洋経済史・世界史概説を履修したい方は受講してください。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与方針のうち、とくに【思考力、判断力、表現力等】に資する科目です。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある程度の基礎的な地理の知識を養うことで、植民地世界のそれぞれの地域とのつながりについて説明できるようになります。</li> <li>・トピックに関連する歴史資料・図やグラフを読み解きの練習を積み重ねることで、期末テストの際に専門的な西洋経済史の文章の意味を理解できるようになります。</li> </ul>		
授業内容	<p>第1回 西洋経済史のとびら</p> <p>第2回 地中海世界における砂糖の伝播ーヨーロッパとイスラーム</p> <p>第3回 ポルトガル海上帝国の誕生ー香辛料とインド洋西海域</p> <p>第4回 長期の16世紀ー長距離交易と大市都市</p> <p>第5回 銀の通り道ー新大陸とヨーロッパ商人</p> <p>第6回 覇権国家オランダー「危機の時代」の商人ネットワーク</p> <p>第7回 カトリック対プロテスタントー大西洋三角貿易のはじまり</p> <p>第8回 資本蓄積論</p> <p>第9回 お茶を知るー商業革命時代の東インド貿易</p> <p>第10回 議会と軍隊ー「財政＝軍事国家」論</p> <p>第11回 投資社会の勃興ーバブルと財政金融革命</p> <p>第12回 フランスの大西洋貿易における世界商品の流転</p> <p>第13回 消費革命ーアメリカ独立戦争の経済史</p> <p>第14回 18世紀世界システムにおけるヘゲモニー競争</p> <p>第15回 「世界の一体化」と世界システムー重商主義時代の終わり</p>		

授業形態※	対面
評価方法※	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中間テスト（20%）＋期末テスト（20%） フィードバックとして、テスト直後の授業で必要に応じた解説をし、またLMSに正答を掲載するので自己採点をしてください。</li> <li>・ 小テスト課題提出（各6点×10＝60%） 小テストの正答は毎回授業開始後10分を使って解説されます。課題の配布と提出はすべてLMSを通じて行います。</li> </ul>
評価基準	
テキスト	川北稔（1996）『砂糖の世界史』岩波ジュニア新書。
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各回の授業後課題（小テスト）はすべて提出すること。</li> <li>●指定教科書は各自で購入し、テスト勉強のために読んでください。それ以上の参考文献を読み進めることも推奨します。</li> </ul>
授業シラバス	<a href="https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1">https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1</a>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経済学科
科目名※	公共経済学Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度前期	曜日・時限 ※	月-2
キャンパス※		教室※	307
学修分野			
授業目的※	<p>本講義は、公共経済学の基本的な知識を習得することを目的とする。一定の理想的な条件を満たす経済において、競争市場が最適な資源配分を達成することを理解し、その上で、競争市場においても最適な資源配分が達成しない場合（市場の失敗）に政府がどのような政策を行うべきかを学ぶ。加えて、所得再分配の観点からの政府の政策について学ぶ。また、地方公務員試験等の受験に役立つ知識と応用力をつけるため、公務員試験の過去問をとりあげながら、公共経済学の基礎理論を学んでいく。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【（知識、技能）】に資する科目です。</p>		
到達目標	<p>公共経済学に関する基礎力を身につけ、市場の失敗や所得再分配など、公共政策が直面する課題を理論的に理解し、論理的な視点でそれらの問題の解決方法を理解すること。加えて、現実の制度やルールを理解した上で、その制度（ルール）の含意を論理的に読みとり最適な行動をとることや適切な分析ができるようになること。</p>		
授業内容	<p>第1回 ガイダンス （講義の内容と進め方・公共経済学を学ぶ意義）、基礎的な数学の確認</p> <p>第2回 政府の役割と財の種類、基礎的な数学の確認</p> <p>第3回 需要曲線と供給曲線</p> <p>第4回 弾力性</p> <p>第5回 生産者行動の理論①（費用関数）</p> <p>第6回 生産者行動の理論②（利潤最大化と供給曲線）</p> <p>第7回 消費者行動の理論</p> <p>第8回 パレート基準</p> <p>第9回 厚生経済学の基本定理</p> <p>第10回 市場均衡と余剰分析</p> <p>第11回 政府規制・租税の理論①（規制）</p> <p>第12回 政府規制・租税の理論②（租税）</p> <p>第13回 外部性の理論①（正の外部性）</p> <p>第14回 外部性の理論②（負の外部性）</p> <p>第15回 外部性の理論③（外部性の問題に対する解決方法など）</p> <p>※講義内容については、履修者の理解度に応じて、講義の順番や内容を変更する場合があります。また、公共経済学Ⅰで扱えなかった学習内容がある場合に、公共経済学Ⅱでは公共経済学Ⅰの学習内容の続きから授業を行う。</p>		

授業形態※	対面
評価方法※	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期試験（持ち込み不可）の成績100%によって評価する。</li> <li>・ 講義で扱った問題については、講義内で問題解説をするなどのフィードバックを履修者に行う。</li> </ul>
評価基準	
テキスト	指定なし（資料を配布する）
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成績評価の詳細や教科書・参考書、予復習の方法については、初回ガイダンスにて説明を行う。</li> <li>・ ミクロ経済学の基礎知識があることが望ましい。</li> <li>・ 財政学Ⅰ・Ⅱを履修していること、あるいは財政学Ⅰと同時に履修することが望ましい。</li> </ul>
授業シラバス	<a href="https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1">https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1</a>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	児童英語教育論A	単位数 ※	4
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	月曜日 3時限 木曜日 3時限 (2コマセットの授業)
キャンパス ※	幕張キャンパス	教室 ※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	この講義は将来的に早期英語学習者を対象とする英語教師になるために、必要な理論や教育現場での実践活動を概観し、模擬授業などの実技演習にも取り組む。特に我が国における早期英語教育の全体像と新学習指導要領における小学校外国語活動と外国語科を理解し、自ら授業案を立案・指導できるようになるための入門基礎科目として関連内容を幅広く扱う。		
到達目標			
授業内容	<p>第1回講座内容の紹介、成績評価方法、レポート課題発表 第1章：小学校における英語教育－導入の経緯、現状と展望 ①</p> <p>第2回第1章：小学校における英語教育－導入の経緯、現状と展望 ② 新学習指導要領を紐解く、グループワーク①</p> <p>第3回第1章：小学校における英語教育－導入の経緯、現状と展望 ③ 新学習指導要領を紐解く、クイズ、グループワーク②</p> <p>第4回第2章：言語習得と関連領域 ① 子どもの言語獲得の過程 第二言語習得論 関連領域からの理論的枠組み① 学習理論、生成文法、相互作用論 実践体験その1：子どもの歌、TPR</p> <p>第5回第2章：言語習得と関連領域 ② 第二言語習得論 関連領域からの理論的枠組み② インプットとアウトプット理論、 インタラクション仮説、クイズ 実践体験その2：絵本の読み聞かせ①</p> <p>第6回第2章：言語習得と関連領域 ③ 第二言語習得論 関連領域からの理論的枠組み③ CPH、気付きの理論、ピアジェ、 ヴィゴツキー、クイズ 実践体験その2：絵本の読み聞かせ②</p> <p>第7回第3章：基本的な外国語教授法 ナチュラルアプローチ、CLT、他教科連携①、クイズ 実践体験その3：チームティーチング①</p> <p>第8回第3章：基本的な外国語教授法 ナチュラルアプローチ、CLT、他教科連携②、クイズ</p> <p>第9回実践体験その3：チームティーチング②</p> <p>第10回第3章：基本的な外国語教授法 絵本やお話を使った外国語指導①</p> <p>第11回第3章：基本的な外国語教授法 絵本やお話を使った外国語指導②</p> <p>第12回第4章：国際理解教育と英語教育 第13章：指導の基本と留意ポイント</p>		

授業内容	第13回第9章：クラスルーム・イングリッシュの活用 スモールトーク演習①
	第14回第9章：クラスルーム・イングリッシュの活用 スモールトーク演習②
	第15回第11章：教材の使い方・選び方と開発方法：教材の作成・教具についての知識① グループワーク
	第16回第11章：教材の使い方・選び方と開発方法：教材の作成・教具についての知識② グループワーク
	第17回第11章：教材の使い方・選び方と開発方法：音声指導 歌やチャンツの使い方、演習①
	第18回第11章：教材の使い方・選び方と開発方法：音声指導 歌やチャンツの使い方、演習②
	第19回第14章：指導の実際：単元計画、授業の組み立て方 『We can!』を使って模擬授業案を検討する：グループワーク①
	第20回第14章：指導の実際：単元計画、授業の組み立て方 『We can!』を使って模擬授業案を検討する：グループワーク②
	第21回第14章：指導の実際：単元計画、授業の組み立て方 『We can!』を使って模擬授業案を検討する：グループワーク③
	第22回第15章：文字指導のあり方① 模擬授業準備、実践演習、グループワーク④
	第23回第15章：文字指導のあり方② 模擬授業準備、実践演習、グループワーク⑤
	第24回教材作成、実践演習、グループワーク⑥
	第25回模擬授業に向けての技術的指導、実践演習、グループワーク⑦
	第26回模擬授業①チームティーチング、考察、フィードバック
第27回模擬授業②チームティーチング、考察、フィードバック	
第28回模擬授業③チームティーチング、考察、フィードバック	
第29回模擬授業実践の振り返りと理論の裏付け	
第30回実践と理論の結びつけ、授業のまとめ	
授業形態※	対面
評価方法※	レポート・クイズ・振り返り 30% 実技演習 40% 授業への貢献 30% レポート・クイズ、授業デモ、授業への貢献度を考慮して総合的に評価する。
評価基準	
テキスト	
注意事項	<b>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (<a href="https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/">https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/</a>) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</b>
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	中国語学概論 I	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	月曜日 3時限
キャンパス ※	幕張キャンパス	教室 ※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p><b>【授業のテーマと概要】</b>          この授業では、中国語とはどのような言語であるかを主に文法面から概説します。現代中国語の文法を体系的に理解できるようになることを目指しますが、前半は漢字の成り立ち、文字改革などについても触れます。また、中国語のことば遊び（物謎、字謎、しゃれ言葉、早口言葉）やことわざ、祝祭日のことば、慶弔のことばなどについても適宜紹介します。</p> <p><b>【授業の目標と到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語の文字や文法体系について学び、その歴史や特徴を理解する。</li> <li>・中国語とはどのような言語か、その主な特徴について説明できる。</li> <li>・中国語という言語を多面的に考察し、その本質を理解する力を養う。(DP3)</li> </ul>		
到達目標			
授業内容	<p>第1回ガイダンス、中国語とはどのような言語であるのか          第2回文字とは何か―漢字の起源・六書・字形の変化と「字書」の話          第3回中国の漢字と日本の漢字、中国の文字改革          第4回ピンイン・ローマ字の制定、正書法          第5回「語法」と「文法」、「字」と「語」、外来語          第6回グループワーク：外来語について調べる（次週の発表準備）          第7回中間発表：外来語について調べて発表（中間試験に相当。形式等詳細は授業内で説明します）          第8回単語と連語、文の成立、标点符号          第9回文の種類（構造上の分類、用法上の分類）          第10回文の成分（主語、述語、述語の構成から見た基本構文）          第11回文の成分（賓語）          第12回文の成分（補語）          第13回文の成分（修飾語）          第14回ことばにみる中国人の世界観、思考法          第15回前期のまとめ（期末試験ならびに解説）</p>		
授業形態 ※	対面		

評価方法※	授業参加度・課題への取り組みなどの平常点（60％）、中間発表（グループワーク・10％）、期末試験（30％）
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ <a href="https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/">https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/</a> ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項



ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名※	インドネシアの政治・経済Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度前期	曜日・時限 ※	月曜日 3時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的※	<p>&lt; 授業の概要 &gt;                      本講義では、インドネシアにおける政治あるいは民主主義の実際が如何なるものかを検討します。そのために、独立後インドネシアの政治体制を概観した上で、1998年以降の民主化の過程を検討する。軍の力を背景とした権威主義体制から、どのように大統領権限を制限し、自由な選挙を実現したか、そしてその結果および実際はどのようなものだったのかが焦点となります。</p> <p>&lt; 授業の目的と到達目標 &gt;                      本講義の目的は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インドネシアの政治、特にインドネシアにおける民主主義に関する専門知識を身に付けます；</li> <li>・インドネシア政治に関する知識を得ることで、異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢を身に付けます。</li> </ul>		
到達目標			
授業内容	第1回イントロダクション: インドネシアの歴代大統領 第2回独立戦争後の困難とスカルノ体制 第3回スハルトの開発独裁体制 (1) 第4回スハルトの開発独裁体制 (2) 第5回民主化運動とスハルト体制の崩壊 第6回1999年総選挙の実施と結果:アブドゥルラフマン?メガワティ 第7回民主化と制度改革 第8回スハルト時代にたいする反省: 歴史問題 第9回2004年、2009年総選挙の実施と結果、その後の政治 第10回選挙スタイルの変化と民主化の矛盾 第11回イスラムの政治コモディティ化 第12回2014年、2019年総選挙・大統領選挙のポリティクス 第13回第一次ジョコウィ政権下でのイスラム勢力と選挙への動き 第14回2024年総選挙 第15回まとめと今後の課題		
授業形態※	対面		

評価方法※	筆記試験
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 ( <a href="https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/">https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/</a> ) からシラバス検索で該当科目を 確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名 ※	ビジネスライフ学科
科目名 ※	情報と社会		単位数 ※ 2
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	月曜・3時限
キャンパス ※	千葉経済大学短期大学部	教室 ※	402
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中のベースアップステージに位置づけられます。		
授業目的 ※	<p>高度情報化社会といわれる現代において、情報という言葉はとても身近である一方で、その理解については人によって様々に異なっている面もあります。本講では、日常的に当たり前のように接している情報について、歴史的な背景も含め、社会との関係を中心に改めて考えてみます。情報の持っている様々な特性が人々の生活にどのような影響を与えているか、何を理解し、何に注意すべきかなど、公共図書館での実務経験をもとに、情報と社会の関係について多面的な把握を試みます。DIKW（データ・情報・知識・叡智）モデルやリテラシーなどのキーワードを軸に、短大で教育を受ける者として知っておくべき情報に関するマナー・身のこなしなどについても触れます。これらを通じて、情報が溢れる現代社会において、より豊かな生き方へのヒントを見つけ、成熟した社会人としての自覚を得る一助となればと考えます。</p>		
到達目標	<p>① 情報が人の行動に及ぼす影響について具体例を示すことができる                  ② 自分なりの情報との付き合い方を見定めることができる                  ③ 信頼性の高い情報を見分けることができる</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 ガイダンス：データ・情報・知識・叡智及び図書館                  第2回 個人と情報に関する身近な事例                  第3回 情報と媒体（メディア）：言語・文字・媒体の歴史概観                  第4回 情報と報道：判断材料としての情報を提供するジャーナリズム                  第5回 情報と統制：言論統制・検閲・焚書・流言飛語・フェイクニュース                  第6回 情報の生産と知識の蓄積：学問・科学の概略史と研究不正                  第7回 情報とICT：コンピュータの発達とコミュニケーションの変化                  第8回 情報とリテラシー：言語・メディア・IT、それぞれのリテラシー                  第9回 情報と図書館：地域における情報拠点としての図書館の役割                  第10回 生活の中でニーズの高い情報：消費者・健康医療・法・ビジネス                  第11回 文化の伝播と受容（情報としての文化の伝わり方の事例）                  第12回 災害と情報（備え・災害発生時の情報ニーズ・災害の教訓）                  第13回 情報と著作権（誰ももが情報の発信者・著作者になりうる時代）                  第14回 情報リテラシー：必要な情報を、的確に探し、評価し、活用する能力                  第15回 まとめ：社会の中の個人としての情報との付き合い方</p> <p>主にパワーポイントのスライドを用いた講義形式で行いますが、適宜、受講者の発言・意見発表を交えたり、視聴覚教材を利用したりすることもあります。毎回レジュメを配布します。参考資料を追加する場合があります。</p>		
評価方法 ※	<p>修了レポート（70%）、授業への積極的参加（出席・発言・意見記入：30%）をカッコ内の比率で総合的に評価します。</p>		

評価基準	
テキスト	特になし。講義レジュメを毎回配布します。関連する新聞・雑誌記事や論文・レポート類を配布する回もあります。
注意事項	
授業シラバス	<a href="https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=1735&amp;nendo=2024">https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=1735&amp;nendo=2024</a>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名※	韓国史概論Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度前期	曜日・時限 ※	月曜日 4 時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的※	この講義では、朝鮮半島を中心とした地域の歴史を学び、その展開を東アジア史の中に位置づけながら理解することを目的とする。それによって日本列島の歴史をより相対的に理解するための視角を得ることができるだろう。前期のⅠでは古代～近世の歴史を学ぶ。		
到達目標			
授業内容	<p>第1回韓国朝鮮史を学ぶために</p> <p>第2回歴史における「朝鮮」の登場と高句麗</p> <p>第3回高句麗・百済の成長と葛藤</p> <p>第4回新羅の成長と半島統一</p> <p>第5回統一新羅と渤海</p> <p>第6回高麗王朝の建国</p> <p>第7回高麗前期における国家体制の整備</p> <p>第8回中間試験</p> <p>第9回高麗社会の展開</p> <p>第10回モンゴルの侵略と高麗後期の文化</p> <p>第11回朝鮮王朝の成立</p> <p>第12回朝鮮前期の支配体制</p> <p>第13回朝鮮前期の政治と社会</p> <p>第14回朝鮮前期の政争と国際関係</p> <p>第15回期末試験と総括</p>		
授業形態※	対面		
評価方法※	中間・期末試験による。なお授業への積極的なとりくみも考慮する。		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 ( <a href="https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/">https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/</a> ) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経営学科
科目名 ※	経営戦略論Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	月-4
キャンパス ※		教室 ※	2-201
学修分野			
授業目的 ※	<p>『経営戦略論Ⅰ』では、マネジメントという現象を生み出していく際に必要とされる「組織として取り組む仕事の未来を大きく深く考える」ための論理（経営戦略の論理）について深く学んでいきます。</p> <p>【未来を考える】ということは目先のことばかりに捉われず常に未来志向であるということです。</p> <p>【大きく考える】ということは独りよがりではいけないということです。顧客や競争相手などの動向にも常に目配せすることが必要です。</p> <p>【深く考える】ということは論理的な思考に基づいて行動するという事です。単なる思いつきで行動してはいけません。</p> <p>つまり、目先のことしか考えず、自分のことしか考えず、思いつきでしか動かないという人は、経営者（マネジメントの実践者）にはなれないということです。</p> <p>そこで本科目では、企業組織の事例を中心に、企業を取り巻く顧客や競争相手といった利害関係者と相互作用しながら展開される経営戦略の論理を具体的に学んでいきます。</p> <p>とりわけこの『経営戦略論Ⅰ』では、比較的オーソドックスな経営戦略論のトピックスを取り上げていくこととします。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【（知識、技能）（思考力、判断力、表現力等）】に資する科目です。</p>		
到達目標	<p>本科目では業種や職種を問わずビジネスパーソンに必須の戦略的思考を身につけた人材を目指す学生を対象とし、次の2点が到達目標となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営戦略論の基本的なトピックスの背後にある論理について理解し、説明できる。</li> <li>・「仕事の未来を大きく深く考える」という戦略的な思考スタイルを身につける。</li> </ul>		

授業内容	<p>毎回の講義はPowerPointを使用しながら進行していきます。DVD教材や新聞・雑誌記事を利用して具体的な事実に基づきながら理解を深めていきます。授業の最後にリアクションペーパーを提出します。</p> <p>第1回 経営戦略を学ぶ意義 授業の進め方、授業スケジュール  第2回 経営戦略とは 経営戦略の定義  第3回 企業戦略 事業の定義、企業ドメイン、ビジョナリー経営  第4回 競争戦略1 3つの基本戦略  第5回 競争戦略2 アウトサイド・インの戦略、業界の構造分析  第6回 競争戦略3 インサイド・アウトの戦略、見えざる資源  第7回 機能別戦略1 4つのP、STP  第8回 機能別戦略2 市場地位別の競争戦略  第9回 成長戦略1 製品ライフサイクル、多角化戦略、PPM  第10回 成長戦略2 新規事業創造戦略  第11回 グローバル戦略 多国籍企業の経営戦略  第12回 ネットワーク戦略 協調の戦略、M&amp;Aと戦略的提携  第13回 社会戦略 企業の社会的責任（CSR）、環境戦略  第14回 これまでの経営戦略  第15回 これからの経営戦略</p>
授業形態※	対面
評価方法※	<p>定期試験50%、レポート・課題25%、授業の各回で実施されるリアクションペーパーの提出による評価25%（合計100%）</p> <p>レポート・課題は教科書より課題を設定する。</p> <p>提出されたリアクションペーパーに対するフィードバックは次回授業冒頭に行われる前回の振り返りの時間に行っていく。</p>
評価基準	
テキスト	浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣，2010.
注意事項	<p>遅刻・私語厳禁。</p> <p>『経営学入門Ⅰ・Ⅱ』での議論を十分に復習した上で講義に参加すること。『マネジメント概論』等、他の経営関係科目と本科目との結びつきについて自分なりに考え、自分の身近な問題に当てはめ、行動（実践）に移していくことが望ましい。</p>
授業シラバス	<a href="https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1">https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1</a>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	帝京平成大学	学部・学科名 ※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名 ※	スポーツ心理学	単位数 ※	2単位
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	月曜日4限
キャンパス ※	千葉キャンパス	教室 ※	6-206
学修分野			
授業目的 ※	スポーツ心理学とはスポーツに関する心理学的な諸問題について研究する学問領域のことであり、応用心理学の一領域として捉えられています。本講義ではスポーツ心理学の基礎的な理論を中心に説明し、トピックに応じて実践的な利用法についても紹介していきます。		
到達目標	競技スポーツ、学校体育、健康スポーツなどに関連する心理的な諸理論を理解し、説明できるようになる。さらに、本講義で学んだことと、今まで自身が経験してきたこととの関連性についても考察できるようになる。		
授業内容	本講義ではスポーツに関わる領域（競技、学校体育、健康など）の内容を取り上げながら、学生の皆さんが将来目指す立場（競技者、指導者、教員、スポーツ医・科学スタッフなど）のトピックを学んでいきます。また、毎授業時に受講生が作成するレポート課題の記載内容や質問を活用しながら他者の経験を受容し、自身の心理面との比較も行います。その際、グループディスカッションを適宜取り入れることもあります。		
授業形態 ※	対面		
評価方法 ※	定期試験の成績60%、平常点40%（授業内での毎回のレポート課題、授業時の取り組み）とし、総合して評価する。		
評価基準			
テキスト	「なし」 ※適宜プリントを配布する予定です。		
注意事項			
授業シラバス			

※は必須記入事項



ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	コミュニティ政策
科目名 ※	宗教と科学	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度 前学期	曜日・時限 ※	月曜5限
キャンパス ※	千葉キャンパス	教室 ※	12-101
学修分野			
授業目的 ※	宗教と科学それぞれの基礎的知識を養い、両者の関連性を把握し、あわせて人間生活における宗教の役割を考察する力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会現象としての宗教を対象化して人間理解として観る姿勢を培う。</li> <li>2. 社会科学、自然科学の在り方を具体的テーマを通じて理解する。</li> <li>3. 「宗教と科学」との関連を考察することの意味を把握することができる。</li> </ol>		
授業内容	<p>宗教と自然科学および社会科学との関連について知的な興味をもつ学生諸君の関心に応えて、人生と科学とのかかわりをさまざまな側面から学生諸君の理解に合わせて講述する。そのさい宗教と科学を架橋する考え方を平面的に解説するだけでなく、宗教の意味や役割を考察することにより、「宗教と科学」の問題を学生諸君が自分自身の課題として考える糸口になるようにしたい。</p>		
授業形態 ※	<p>授業は講義形式でおこなわれ担当者が毎回の授業運営にあたるが、約半数の授業では授業のなかに2人ずつのペアワーク、3人以上のグループワークといったアクティブラーニングを取り入れる。</p>		
評価方法 ※	<p>宗教現象を、人間理解の一助とし、社会科学、自然科学的文脈で対象化して理解し、「宗教と科学」との関連について理解するための授業内容に関する、事前・事後学習、小レポート、授業内試験により総合的に評価する。</p>		
評価基準	<p>[評価基準の割合] 事前事後学習レポート30点、小レポート30点、授業内試験40点の計100点</p>		
テキスト	<p>※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。</p>		
注意事項	<p>15回を通じて、主体的に学修に取り組むこと。 事前・事後学習を欠かさないこと。 提出物は必ず提出すること。</p>		
授業シラバス	<p>「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。</p> <p><a href="https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp">https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp</a></p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部 発達教育学科
科目名 ※	自信を高める心理学	単位数 ※	講義 2単位
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	火曜・5時限
キャンパス ※	小倉キャンパス	教室 ※	講義室10
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的 ※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し、高い道德心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<p>1. 自己イメージがどのように形成されるかについて基礎的な知識を習得し、自己肯定感を高める方法を実際に活用する体験をする。</p> <p>2. ストレスへの対処や自分自身の感情のコントロールに関する心理学的な知識を獲得し、自分の精神的健康の維持や向上に役立てる。</p> <p>3. 他者との望ましい人間関係を築き、維持するためのコミュニケーションスキルについて知識を獲得し、授業の中で行う訓練を通じてそうしたスキルを高める。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 授業ガイダンス・精神的成長とストレス・心理学的に見た青年期(目標2)</p> <p>第2回 ストレスへの対処とメンタルヘルス(目標2)</p> <p>第3回 自己イメージはどのようにつくられるか(目標1)</p> <p>第4回 ストレス、不安や恐怖を和らげる方法(目標2)</p> <p>第5回 自己肯定感を高めるには(目標1,2)</p> <p>第6回 マインドフルネスを高める(目標2)</p> <p>第7回 自分自身への思いやりを高める(目標1,2)</p> <p>第8回 自己カウンセリング(目標1,2)</p> <p>第9回 価値観の形成とアイデンティティの確立(目標1,2)</p> <p>第10回 アサーションの基礎(目標3)</p> <p>第11回 アサーション実技訓練(目標3)</p> <p>第12回 合意形成のグループワーク(目標3)</p> <p>第13回 認知行動療法を日常生活に活かす(目標1,2)</p> <p>第14回 性格テストを活用した自己理解(目標1,2)</p> <p>第15回 まとめ 自信を高めるには(目標1,2)</p>		
評価方法 ※	<p>授業への参加態度、提出物の提出の有無と内容、期末試験の得点から総合的に評価する。</p> <p>学期末に授業内で期末テストを行う。テストには、授業で取り上げた知識・スキルを問う問題や、授業に関わる自分の体験についての質問などが含まれる。</p> <p>評価方法</p> <p>受講態度・体験的学習への取り組み 40%程度</p> <p>毎回の授業の最後に提出する小レポートやその他の提出物の内容 40%程度</p> <p>期末テストの成績 20%程度</p>		

評価基準	<p>1. 自己イメージがどのように形成されるか、自己肯定感を高める方法について基礎的な知識を習得し、その概要を説明できること。</p> <p>2. ストレスへの対処や自分自身の感情のコントロールに関する心理学的な知識を獲得し、それらを自分の精神的健康の維持や向上に役立てる方法を説明できること。</p> <p>3. 他者との望ましい人間関係を築き、維持するためのコミュニケーションスキルについて基礎的な知識を獲得し、そうしたスキルを高める練習ができるようになっていること。</p>
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
注意事項	<p>授業内容には、アクティブ・ラーニング（グループ・ディスカッション、ロールプレイ・ワーク）が含まれます。</p> <p>この授業では、多くの個人ワークやグループワークを行います。授業内で行う様々な個人ワークやグループワークに積極的に取り組んでください。個人ワークには、過去のポジティブな出来事やネガティブな出来事を振り返り、それについて文章を書く課題や、現在の生活の中でのストレスについて考え、文章を書く課題が含まれます。</p> <p>授業内容や授業の順序は、受講生のニーズやその他の条件に応じて、変更する可能性があります</p>
授業シラバス	<a href="https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx">https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx</a>

※は必須記入事項